

計画的な 個体数管理とモニタリング

株式会社野生動物保護管理事務所
 上席研究員 清野 紘典

サル個体数管理のポイント①

科学的データを基にした
 捕獲計画の立案、実施・検証

- 最低限の予算と労力で被害軽減効果（加害レベル軽減）が最大に
- 保全上のリスクを回避



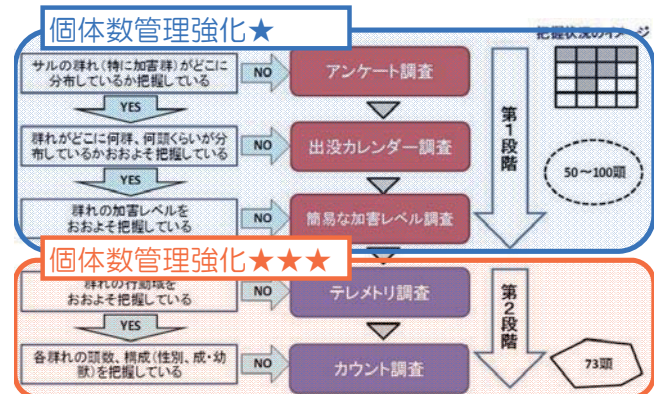
サル個体数管理が最適化される

サル個体数管理のポイント②

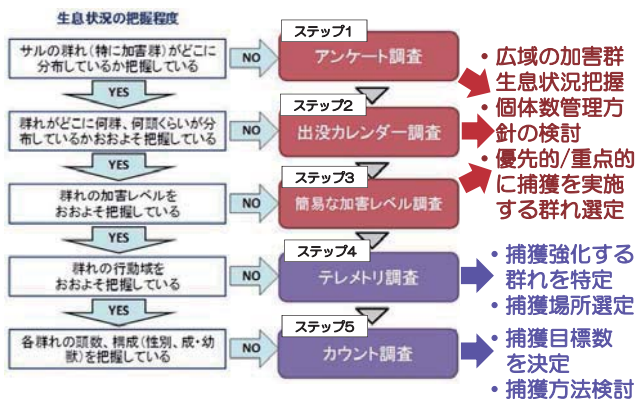
量(捕獲数)より質(捕獲内容)

- サル個体数管理は捕獲数を積み上げることが第一目標ではない
- 群れの加害性を軽減・消失させることが第一目標
- モニタリング結果をもとに群れごとに捕獲計画を検討し質を高める（捕獲目標数・捕獲オプション・捕獲方法等）

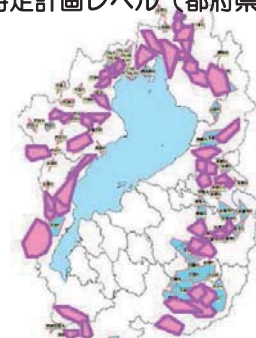
サル個体数管理のためのモニタリング



サル個体数管理のためのモニタリング



ステップ1～3
 <第一段階> 管理方針の検討、優先的/重点的に捕獲を実施する群れを検討
 特定計画レベル（都府県）



都府県	群れ数	調査年度					調査年度
		2015	2016	2017	2018	2019	
北海道	0	0	0	0	0	0	0
青森県	0	0	0	0	0	0	0
岩手県	0	0	0	0	0	0	0
宮城県	0	0	0	0	0	0	0
秋田県	0	0	0	0	0	0	0
山形県	0	0	0	0	0	0	0
福島県	0	0	0	0	0	0	0
茨城県	0	0	0	0	0	0	0
栃木県	0	0	0	0	0	0	0
群馬県	0	0	0	0	0	0	0
埼玉県	0	0	0	0	0	0	0
千葉県	0	0	0	0	0	0	0
東京都	0	0	0	0	0	0	0
新潟県	0	0	0	0	0	0	0
富山県	0	0	0	0	0	0	0
石川県	0	0	0	0	0	0	0
福井県	0	0	0	0	0	0	0
山梨県	0	0	0	0	0	0	0
長野県	0	0	0	0	0	0	0
岐阜県	0	0	0	0	0	0	0
静岡県	0	0	0	0	0	0	0
愛知県	0	0	0	0	0	0	0
岐阜県	0	0	0	0	0	0	0
愛知県	0	0	0	0	0	0	0
三重県	0	0	0	0	0	0	0
滋賀県	0	0	0	0	0	0	0
京都府	0	0	0	0	0	0	0
大阪府	0	0	0	0	0	0	0
兵庫県	0	0	0	0	0	0	0
奈良県	0	0	0	0	0	0	0
和歌山県	0	0	0	0	0	0	0
徳島県	0	0	0	0	0	0	0
香川県	0	0	0	0	0	0	0
愛媛県	0	0	0	0	0	0	0
高知県	0	0	0	0	0	0	0
福岡県	0	0	0	0	0	0	0
佐賀県	0	0	0	0	0	0	0
長門県	0	0	0	0	0	0	0
熊本県	0	0	0	0	0	0	0
大分県	0	0	0	0	0	0	0
鹿児島県	0	0	0	0	0	0	0
沖縄県	0	0	0	0	0	0	0

第三次特定鳥獣保護管理計画（ニホンザル）滋賀県を改定

ステップ4~5
〈第二段階〉

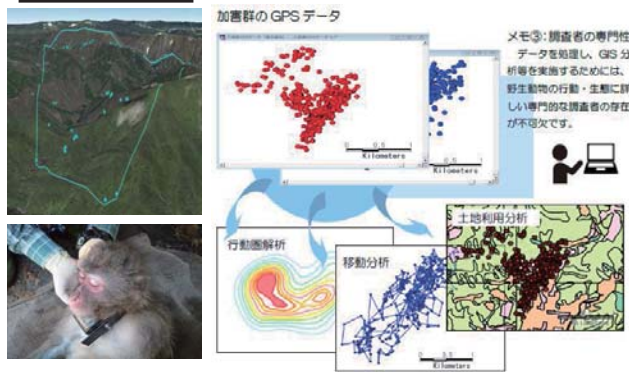
- ・捕獲強化する群れを特定
- ・捕獲頭数/捕獲オプションを決定

実施計画レベル (市町村)



ステップ4+
(GPS首輪)

- ・捕獲檻設置場所を効率的に選定
- ・出没位置から被害対策方法を検討



特定計画の下位計画として
地域実施計画(群れごとの捕獲計画)策定が有効

事例) 滋賀県

個体数調整を実施する場合は市町村が
地域実施計画を策定

滋賀県版 個体数調整の実施要件

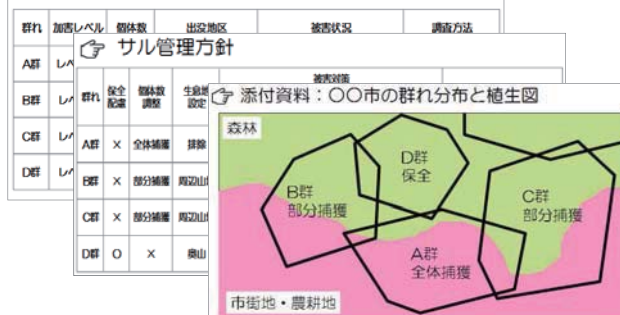
- ✓ 保全上の問題クリア
- ✓ 十分な被害管理
- ✓ 生息地管理の議論
- ✓ 加害レベル7以上 (全体捕獲9以上)
- ✓ 群れの行動特性把握
- ✓ 合意形成
- ✓ モニタリング体制の整備



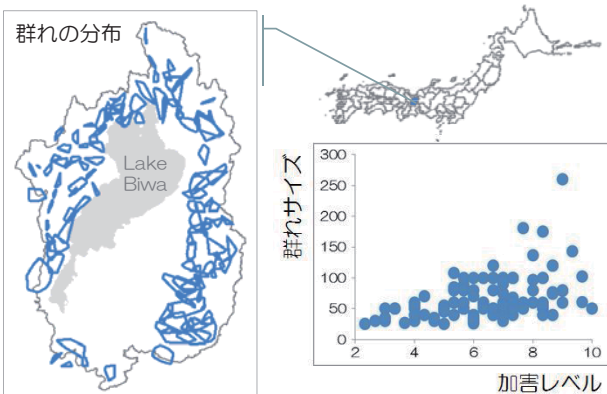
事例) 滋賀県

〇〇市地域実施計画 (市策定)

〇〇市の現状



個体数管理の実践例 (滋賀県)



個体数管理の実践例 (滋賀県)

加害レベルの評価

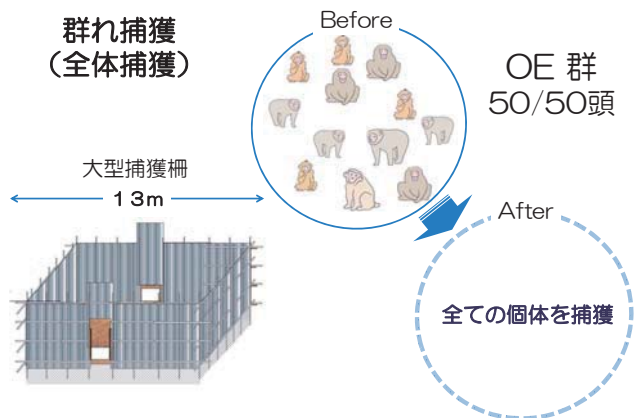
3つの指標



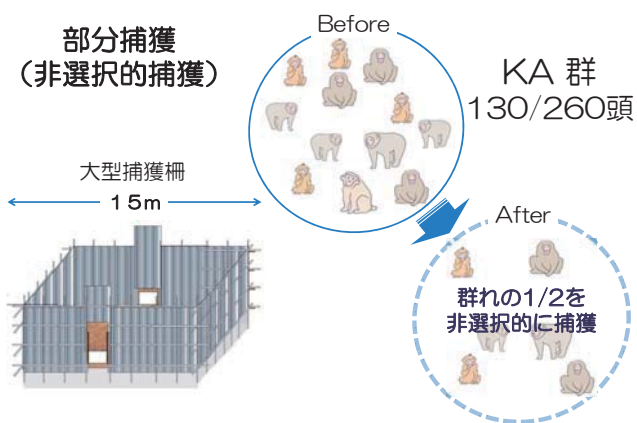
個体数管理の実践例（滋賀県）
群れ特性と捕獲計画の立案

群れ	群れの特性			捕獲計画（地域実施計画）		
	群れサイズ	加害レベル	主要な生息地	捕獲オプション	捕獲方法	捕獲目標数 / 群れサイズ
OE群	中	最大	市街地	群れ捕獲 (全体捕獲)	大型捕獲柵	50/50
KA群	大	大	中山間	部分捕獲 非選択的	大型捕獲柵	130/260
KC群	中	大	中山間	部分捕獲 選択的	麻醉銃	25/76

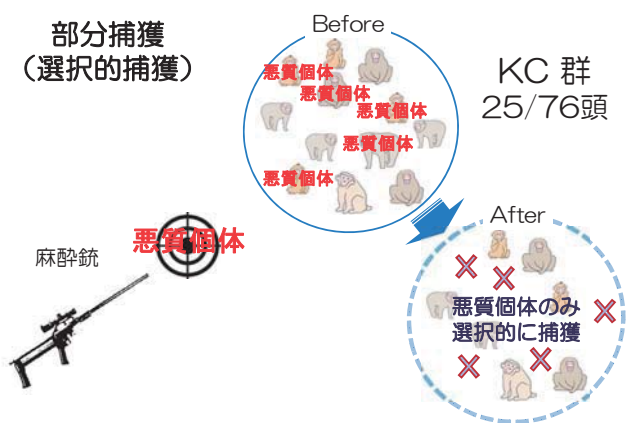
群れ捕獲
(全体捕獲)



部分捕獲
(非選択的捕獲)



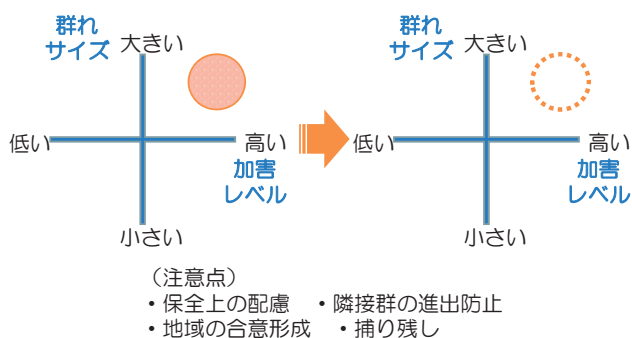
部分捕獲
(選択的捕獲)



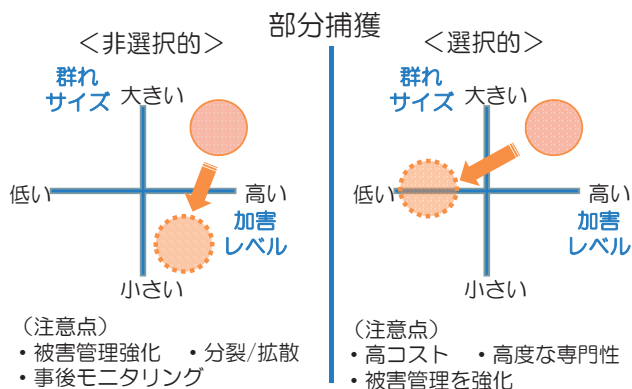
個体数管理の実践例（滋賀県）
捕獲の結果

群れ	被害量	主要な生息地	加害レベル	その他
OE群	被害解消	-	-	隣接群がOE群の行動圏内に進出中
KA群	55% 低下	変化なし	変化なし	-
KC群	76% 低下	市街地・農耕地 40% 低下	低下	-

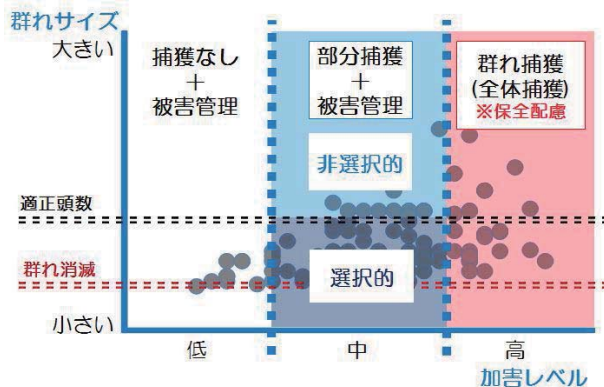
各捕獲オプションの特徴
群れ捕獲（全体捕獲）



各捕獲オプションの特徴



群れ特性に応じた捕獲オプションの選択



今後のサル個体数管理に向けて

- 捕獲計画は必須**
無計画な捕獲の推進は予算の無駄使い。適正なモニタリングによって捕獲計画を立案・実施し、評価すべき
- 予算と労力**
同時多頭捕獲は比較的容易だが、捕獲計画の運用・実施は簡単ではない。捕獲(補助)事業の拡充や捕獲従事者の確保が必要
- 技術・技能**
捕獲強化のため単に大型捕獲柵を設置しても期待される成果がないばかりか、群れの分裂・分散によって対策が煩雑化するおそれもある
個体数管理を担う実務者の育成や、専門家への相談が必要

今後のサル個体数管理に向けて (続き)

- 方法論の検討**
新たな捕獲方法の開発、実証試験によって効率的・効果的な個体数管理の方法論の検討
地域における適正な生息個体数・生息群れ数の検討
- 隣接自治体との連携**
群れの分布が隣接自治体にまたがっている場合は、関係者間で管理方針・捕獲計画について十分に協議し、足並みをそろえる必要がある
- 被害管理・生息地管理の推進**
個体数管理だけで問題を解決することは困難
被害管理・生息地管理も併せて強化する